沼垂 かがみ

〈学校の教育目標〉
○よく考える子
○力をあわせる子
○体をきたえる子

〈児童数〉
368名
（家庭数 292）

発　行　新潟市立沼垂小学校　広報部
TEL(247)5326　FAX(247)5327

沼垂小ホームページをご覧ください！
沼垂小情報をお知りになりたい方は
https://numtori.city-niigata.ed.jp/index.html
沼垂小 ←検索

今月号の内容

●巻頭言
●運動会
●沼垂校教育ビジョン

決定　令和８年度
第65回全国学校体育研究大会
新潟大会　授業会場校

運動やスポーツに親しむ心を育てる

校長　門倉純一

運動会では、子どもたちが競技に応援に全力で取り組み、見ている皆様にも感動を与えたことと思います。ご声援いただいた皆様に、感謝申し上げます。

ところで、皆様もご存じだと思いますが、運動やスポーツをすることには、体と心の両方に多くのメリットがあります。

体の面では、体力や筋力向上、生活習慣病の予防など、心の面では、爽快感や達成感、ストレス解消、仲間との連帯感などの精神的な充足感を得ることができます。また、大人になってからの運動習慣は、健康寿命を伸ばすと言われています。

このように、運動やスポーツには、われわれに生きる豊かさを与えてくれます。

しかし、運動やスポーツが好きではない子どもが一定数いるのも事実です。運動やスポーツが嫌いになると、運動習慣を始めとする健康的な生活に大きな影響を与えます。運動嫌いの原因には、次のことが考えられます。

○幼少期からの経験

幼少期にスポーツの経験が少ない、あるいはネガティブな経験（体育の授業での失敗、部活での挫折など）は、運動やスポーツに対する嫌悪感や苦手意識を形成する可能性がある。

○体育授業での苦痛

体育の授業で、他者と比較する活動が多く、自身の運動能力の劣等感を強く感じると、運動嫌いが助長される可能性がある。

○周囲の言動

周囲から運動が苦手だと揶揄されたり責められたりするような経験も、スポーツ嫌いにつながる。

これらを防ぐために「学校で時代に合わせて柔軟な体育授業を行うことが重要」と体育科教育専門の帝京大学の高田彬成教授は話しています。

昭和の体育授業は、「体育はこういうもの、道具は決まっている、ルールはこれしかない」が絶対でした。そして、運動が得意な子どもだけに賞賛が集まり、そうでない子どもに無理な努力を強いる傾向がありました。しかし、その時代で正しいとされた見方・考え方も、令和の今、多様性の重視や子どもを取り巻く環境の変化により、大きく変わってきました。

高田教授は「体育的活動や体育授業の工夫や配慮が欠かせない」とも言います。どの子どもも楽しくなるよう内容を選択できたり、やり方やルールを工夫して仲間とともに課題解決したりすることなどです。これは、個別最適な学びや協働的な学びといわれるものです。

また、学習指導要領体育編では、運動やスポーツを「する」「見る」「知る」「支える」という広い視点で捉え、生涯に渡りスポーツを楽しむ素地を養うことが大切だとしています。

沼垂校では、すべての子どもが自分の可能性を信じて前向きに取り組み、仲間との絆を深めることにつながるような体育授業や環境整備を進め、運動やスポーツに親しむ心を育てていきます。